

# Forest 通信 H30 10

林野庁 関東森林管理局 高尾森林ふれあい推進センター NO.356



## 高尾山の生きものたち

### タヌキ (イヌ科)

私を見つめる丸い眼が愛らしい。日が暮れて誰もいない高尾山の道に、猫より少し大きな動物がいた。近づくと道脇に入った。見るとタヌキが足を揃えて座っていた。ふっくらした毛で丸く見え、ほのぼのと感じた。

タヌキは、平地から山地の森林などに広く生息する。環境への順応力が高く、果実や穀類、昆虫など動物、生ごみなど、様々なものを食べる。家族で暮ることが多く、同じ場所で糞をし、お互いの糞において食べ物などの情報交換をしている。巣穴も、岩の隙間や木の根元の洞、人家の床下など様々な場所を使う。食べ物も巣も、周りにあるものに合わせ、仲間と連携して生きている。のんびりしているようで、意外にたくましい。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.37

### カエデ (ムクロジ科)

北海道から九州までの温帯に分布する落葉高木で、高尾山のイロハモミジは紅葉の代表です。カエデの由来は葉の形がカエルの手(足)に似るからといわれています。モミジとも呼ばれるのは、山の木が紅葉することを指した「紅出(もみいづ)」が「もみじ」になり、本来は特定の樹種を表す言葉ではなかったのですが、紅葉する木々の中でとりわけ鮮やかに色を変えるカエデ類のことをモミジと呼ぶようになったといわれています。

木材としては、カエデ類の仲間でも大木となるイタヤカエデがよく利用されています。材質は散孔材で、木目が細かく、辺材と心材の区別が不明瞭で、色あいはほんのりと優しいピンク色をしており、絹のような光沢があり、その美しさが好まれ家具・内装材に利用されています。北海道洞爺湖サミットでは、G8円卓会議用のテーブルと椅子が北海道産のイタヤカエデで

作られました。硬くて傷がつきにくく衝撃に強いので体育館の床やボーリングのピン等の運動具、器具の柄によく使われ、私のいた北海道の現場ではトビの柄に使用していました。

楽器材としても価値が高く、木材の中でも音の振動吸収が大きい特性から、ヴァイオリンの裏板材として利用されています。材質が堅くリコーダーの材料としても利用され、甘く澄んだ音色がします。なお、ギターの裏板は振動吸収が少ない材が好まれています。

その他のカエデ類ではウリハダカエデ(こけし、将棋駒)、オオモミジ(床柱、框(かまち)、彫刻)などに利用されています。(皿)



## 森林教室 横浜市立 美しが丘小学校

夏休み明けの9月11日(火)、森林教室のため横浜市立美しが丘小学校5年生70名が森林ふれあい館に到着しました。お天気はくもり、過ごしやすい気候の中森林教室が開催されました。

記念撮影、開校式に続き森林学習です。まずは地球温暖化問題についてわかりやすく解説したアニメを鑑賞し、続いて座学を行いました。高尾山に住む生きものや樹木の話、森林を守ることは人間の生活も守ることになるなど、みな真剣に聞き入っていました。

その後「木の生長の仕組み」について講義を受け、人気の丸太切り体験開始です。ノコギリ経験者が多いようで、順調に何枚も切っていました。

お昼ご飯の後はふれあい館周辺の林道をぐるっと回る森林散策に出発しました。初秋に咲く可憐な花や面白い形の葉、くつつき虫と呼ばれる植物や触るとかぶれるツタウルシなど、色々な植物を興味津々で観察した児童たちは引率の先生への質問が

止まらないようでした。また、久しぶりの森林散策で油断したサワガニが何匹も捕獲されていました。

新鮮な山の空気を深呼吸し、さっぱりと明るい表情になった児童たちは、バスの窓からぶんぶん手を振って、学校へと帰っていきました。(松)



元気よく森林散策に出発

## 森林教室 八王子市立 片倉台小学校

9月21日(金)、八王子市立片倉台小学校の児童45名と先生方5名が森林ふれあい館に来館、森林教室を行いました。

午前は、ビデオとパワーポイントを利用して森林の働きについて学習。職員からの説明後は質問が相次ぎました。中には「外材の輸入についてどう思いますか」や「人工林と天然林では住んでいる動物に違いがありますか」等、鋭い質問もあり、事前学習でかなり勉強してきた様子が伺われました。

続いて6班に分かれ丸太切り。比較的太めの丸太を用意したのですが、皆さん教えられたとおり上手に切ることができました。中には手慣れた様子で鋸を使う子もあり、もっと切りたいとの要望もありましたが、1人2~3回切ったところで終了。

午後は、森林観察を開始。傘やカッパ姿で元気に出発。森林の働きや木の成長について実際に森林を目に説明を受けながら、植物の葉っぱの手触りや匂い、沢水を直接手で触れてみるなど五感で森林を感じていただきました。サワガニやクモだけでなく、日頃はあまり目にすることがない「クガビル」も見ることが

できた班もありました。雨の日は雨の日でいつもと違う観察ができたと思います。

閉会式では、皆さんから「実物を見ながらの勉強ができて良かった」、「地球環境に気がつけた暮らし方をしていきたい」等の感想をいただきました。

今回の森林教室は1日中雨降りでした。泥だらけになった児童もいましたが、けがもなく終了することができてほっとしました。

今回の森林教室を機会に、さらに森林に親しんで頂ければと思います。(磯)



雨降りでも元気に森林観察へ出発

## 森林教室 東京都立 石神井特別支援学校

9月20日(木)、東京都立石神井特別支援学校の中学1年生25名と先生方16名が森林ふれあい館に来館、森林教室を行いました。

開始前には若干雨が降っていましたが、皆さんが到着する頃には雨もやみ、森林散策を実施することができました。

森林散策は3班に分かれ出発、普段の生活ではなかなか体験できない森林の中で森林の働きの説明を受けるとともに、植物の葉っぱの手触りや匂い、沢水の冷たさを直接手に触れて感じていただきました。班によってはカエルやサワガニなどにも出会え、生徒の皆さんも喜んでいました。

丸太切り体験では、最初は二の足を踏んでいた生徒さんもいましたが、半分ほど切ったあたりからスムーズに鋸が進み、上手に切り落とすことができました。

時間の都合もあり、丸太切り体験は一部の生徒

さんだけになってしまいましたが、職員が人数分の輪切りを用意し、お土産に持って帰っていただきました。

閉会時には、生徒さんから「楽しかった」との感想をいただきました。センターからは「これを機会に森や木に親しんでください」とお伝えし、終了となりました。(高)



鋸も上手に使えるようになりました

## 職場体験 八王子市立 横山中学校

9月5日～7日の3日間、八王子市立横山中学校の2年生3名が職場体験にやってきました。初日は、午前中に、前日通過した台風による落石や枝等の除去作業を行いながらふれあい館や周辺の林道等の被害確認を行い、また、林道の刈り払い作業を体験してもらいました。午後は、国有林野事業や森林・林業について学習し1日目を終了しました。2日目は、歩道上に倒れた倒木の処理を行うため、リュックを背負って目的地へと向かい、倒木処理に汗を流してくれました。その後、歩道状況の確認や、森林観察をしながら高尾山頂～4号路～1号路を歩き、センターへ到着したときには随分疲れた様子でしたが、倒木を片付けるためにノコギリを使ったり、植物等を観察しながらの登山で、何度も登ったことのある高尾山だけど、これまで経験したことのない体験ができたと喜んでいました。そして最終日は間伐体験です。楽しみにしていたようですが、思っていたように倒れない木に何度も切り口をのぞきながらノコを引き、やっと倒れると笑顔になり満足そうでした。

きつい作業が多かった3日間だったため、仕事の大変さを感じたようですが、一方で、森林の大切さ・自然環境維持の難しさや楽しさも感じてくれたようです。

ある生徒の感想を紹介します。「今まで仕事がこれほどまで大変とは思っていませんでした。職場体験を通して親の苦勞、ありがたさを知りました。」  
余程疲れたようですね。横山中の生徒の皆さん、お疲れ様でした。(谷)



通行に支障となる倒木を交代で伐採処理

## 体験林業

猛暑が続く8月27日(月)東京都立石神井特別支援学校の主任教諭が来所し体験林業を行いました。体験林業は東京都の中堅教諭等資質向上研修Ⅰの校外における研修のカリキュラムとして学校からの依頼を受けて実施したものです。

先生には、午前中間伐作業と下刈り作業を午後から森林と林業についての座学とクラフト作りを体験してもらいました。

午前中の間伐作業は、30年生のヒノキの伐倒・枝払・玉切を体験してもらいました。30度を超える蒸し暑さの中、作業は思うようにいかず苦労していましたが、2本を伐倒し作業を終えました。伐倒したヒノキは9月に自校の生徒が実施する森林教室での丸太切り用の丸太として利用することとしました。その後下刈鎌を研ぐ作業と林道沿いの下草刈りを経験しました。

午後からの座学では、森林のはたらきと林業の現状について理解を深め。その後、クラフト作りではどんぐりを使ったクラフトと間伐作業中に採っ

た蔓でかごを作成していきました。普段は体験することのできない林業を通じて、少しでも生徒への指導に役立てたいと体験を終えました。

この体験が先生のご活躍に役立てればと期待しております。

尚、センターでは、教育機関等からの依頼があれば、間伐や下刈り作業などの林業を体験いただく「体験林業」を受け入れておりますので是非利用してください。(皿)



間伐体験中です

### 高尾山情報

キチジョウソウが咲き始めています



ツリバナの果実も開いてきました



### 編集後記

従来はカエデ科と分類されていたカエデ類ですが、最近の研究でムクロジ科に分類されることになったそうです。遺伝子解析の技術が上がるに伴い、これからも属や科の分類が変わる樹木が出てくるかもしれません。

また、当センターでは、木工クラフトに使うどんぐりを集めては乾燥させて使用しています。この時期にしか拾うことができないので、拾ったものを当センターにお届け頂けると助かります。

### Forest 通信 NO.356

発行\_\_林野庁関東森林管理局

高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問合わせ先  
林野庁関東森林管理局高尾森林ふれあい推進センター  
〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2438-1  
TEL 050-3160-6040 FAX 042-663-7229  
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>